



働き続けられる職場を目指して

診ます会の先生方には、日頃より、格別のご支援を賜わり、厚く御礼を申し上げます。令和7年4月より看護部長を拝命いたしました池田厚子です。

当院看護部では、生命力の消耗を最小限にするために生活過程を整え、個別的な看護の提供を看護部理念に、ナイチンゲールの三重の関心「理性的な関心・心のこもった関心・技術的な関心」を患者さんに寄せ、看護師が看て考え行動し、患者さんに安心で安全な看護を提供することを目指しています。看護師の育成では、学習環境、教育体制の充実を図ると共に、看護の喜びが感じられ、目標に向かい歩んでいけるよう、一人ひとりの看護師を大切に育て、キャリア開発、生涯学習を支援していきたいと考えています。

今年度は18名の新人看護師を迎えました。4月には、新採職員研修の集合研修で病院・看護部のオリエンテーションが行われ、病院と看護部の理念や病院全体のシステムについての理解を深めました。5月には、基礎看護技術研修で、安全で基本的な看護技術の知識と技術習得のために2日にわたり研修を行いました。6月には、リフレッシュ研修を行っています。日々緊張の中で初めて経験する



済生館 看護部長
池田 厚子



今年度新採看護師リフレッシュ研修
旧済生館本館（三層楼）前にて

ことが多くストレスも増してくるこの時期にいつも企画しています。病院を離れ、旧済生館本館（三層楼）を見学し、新人看護師同士の交流を深めながら、当院の歴史に触れ、学ぶ機会となりました。そして、7月からは夜勤業務を開始しています。

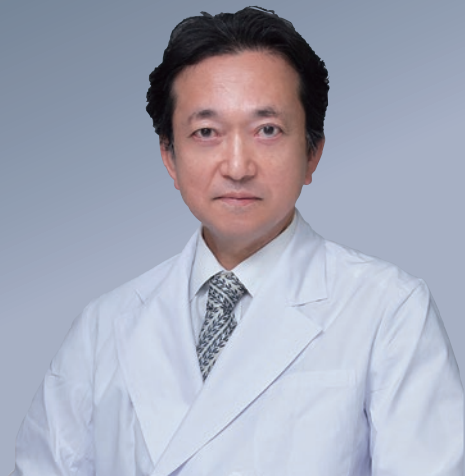
当院では新人看護師の育成のためにプリセプター制度を導入しています。プリセプターは、新人看護師が、『基本的な看護技術を身につけ、安全に看護を行うことができる』を目標に、マンツーマンで指導・サポートを行っています。年間育成計画を立案し、その計画を部署全体で共有し、スタッフ全員で指導・育成を行う体制を整えています。また、プリセプターは、定期的に臨床実践能力、看護技術の修得状況を確認しながら、新人看護師の習熟度にあった個別指導を行うと共に、精神的な支えとなり、安心して働けるようにサポートを行っています。

これからも看護部では、看護の専門職として活躍し、働き続けられる環境づくりに努め、看護師の育成に力を入れて行きたいと考えております。そして、患者さんやご家族が退院後も安心して生活が送れますように支援してまいりますので、診ます会の先生方には、今後も変わらずのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当院における 超音波内視鏡診療の現状

診ます会の先生方には日頃より格別の御支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。本稿では令和7年6月5日診ます会総会における講演会で発表させていただいた内容を一部抜粋し、御紹介させていただきます。

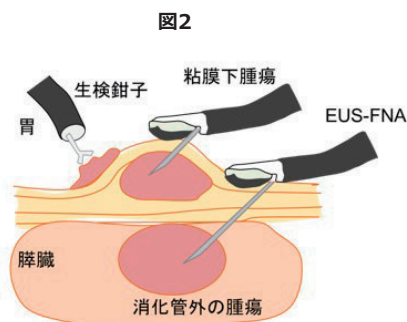
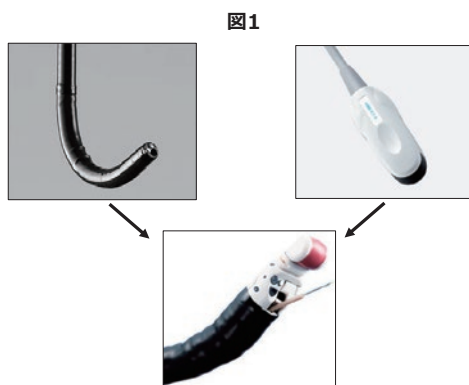
副館長(兼)消化器内科 科長 黒木 実智雄



超音波内視鏡(EUS)について

コンベックス型の超音波内視鏡(EUS)は、通常の胃カメラと体外式超音波を併せたような形になっており、穿刺機能を有していることが特徴です(図1)。超音波画像で病変部を描出し、リアルタイムで針を穿刺して細胞、組織を採取

することができます。以前は診断困難であった粘膜下腫瘍、膵腫瘍などの確定診断をつけることができます(図2)。EUS-FNAの適応、禁忌については図3に、偶発症については図4にお示した通りです。



適応

- ・治療前の組織学的確診
- ・癌の進展度診断
- ・腫瘍性病変の鑑別診断

禁忌

- ・病変が明瞭に描出できない
- ・出血傾向がみられる
- ・穿刺ライン上に血管の介在が明らか
- ・呼吸性変動が大きく穿刺中に針による臓器損傷が危惧される
- ・腫瘍播種の危険性が高いと判断される(嚢胞性腫瘍など)

偶発症

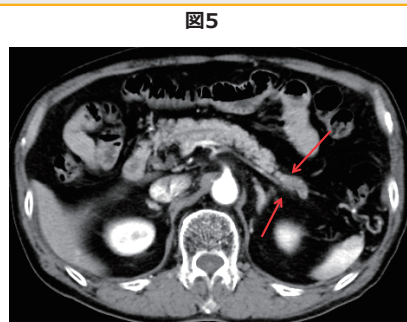
- ・出血(血小板、PT、抗凝固薬、抗血小板薬のチェック)
- ・膵炎(ERCP後のものと比較すると頻度は少なく軽度)
- ・感染(抗菌薬の投与)
- ・消化管穿孔
- ・癌の播種(極めてまれ)

翌日まで腹痛、発熱、消化管出血などの有無を確認する

EUS-FNAが診断に有用であった症例について

当科では、保険収載される以前より、山形県内においては早い時期よりEUS診療に取り組んできました。これまで年間約30症例に対してEUS-FNAを行って参りました。

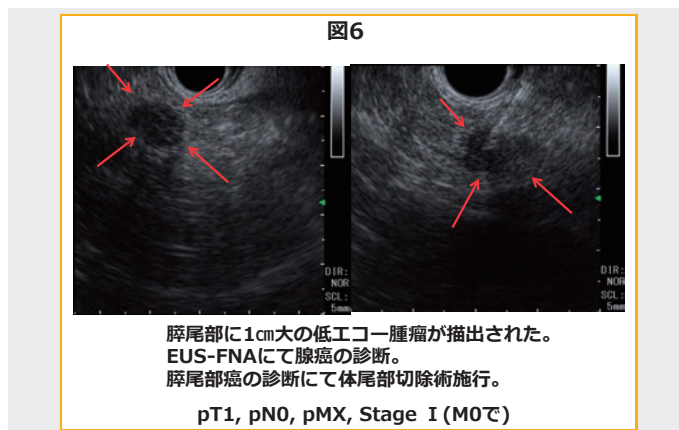
EUS-FNAが診断に有用であった症例を1例提示させていただきます。CT検査で膵尾部の萎縮が認められましたが、腫瘍は明らかではありませんでした(図5)。



膵尾部の萎縮が認められた

EUSで膵尾部に1cm大の低エコー腫瘍が描出され、EUS-FNAにて腺癌の診断となりました。体尾部切除術が施行され、Stage Iで長期生存が得られた症例となります(図6)。

治療方針を決める上で、EUS-FNAは必須のモダリティとなっています。ゲノム医療の進歩で病変部からの組織採取がさらに求められる時代となってきました。EUS-FNAの役割は今後もさらに重要となっている状況です。



内視鏡的治療専用システムについて

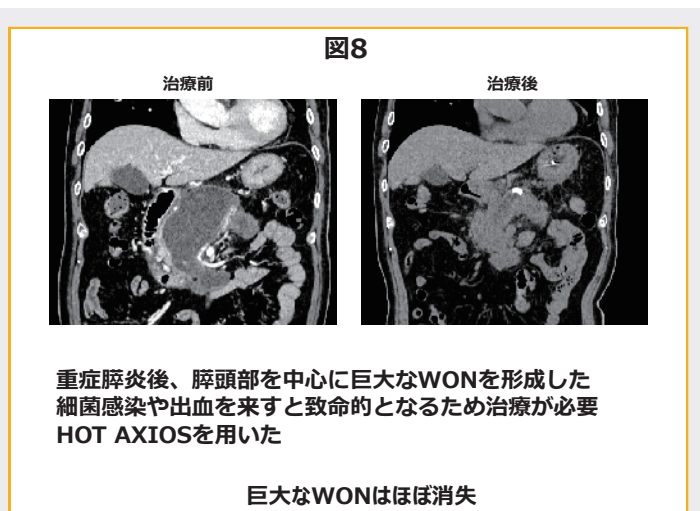
近年はEUS-FNAによる診断だけではなく、EUS-FNAの手技を用いた治療も大きな広がりを見せています。胆汁が流れなくなった胆管や急性膵炎後の仮性嚢胞に対してEUS下にステントを留置するなど当科では多くの症例を経験してきました。

急性膵炎の局所合併症である膵仮性嚢胞(PPC)および被包化壊死(WON)に対して内視鏡的治療専用システム「Hot AXIOSシステム」が用いられるようになってきました。ダンベル型の自己拡張型金属ステントで、大きな瘻孔を形成することができます。ステント内に内視鏡を挿入しネクロセクトミー(壊死物質の直接除去)を行うことができます(図7)。

当科の症例を1例提示いたします(図8)。重症膵炎後で、巨大なWONを形成しました。細菌感染や出血を来すと致命的となるため治療が必要となります。

本症例ではHOT AXIOSを留置し、計4回のネクロセクトミーを行いました。治療前に認められた巨大なWONはほぼ消失させることができました。

HOT AXIOSについては、胆嚢炎に対する経消化管的なドレナージや、胃幽門や十二指腸の通過障害に対する胃空腸吻合へと適応が拡大していく方向となっています。



おわりに

これまで膵胆道疾患において、経乳頭的処置(ERCP関連手技)や経皮的処置(PTGBD、PTCDなど)が中心的役割を担ってきました。今後は経消化管的処置(EUS関連手技)にシフトしていくと予想されています。

当院において患者様に最良の医療を提供できるよう手技の習得にさらに努めていく所存です。診ます会の先生方には、今後も御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



「決意の会」にて、ナイチンゲールの灯の中、看護の道を志す決意を述べる学生たち

ご紹介

山形市立病院
済生館
高等看護学院



山形市立病院済生館
高等看護学院 教務主任

大沼 優子

～社会のニーズに応える看護師の育成を目指して～

超少子高齢社会、2040年問題を見据えて看護基礎教育の改正が行われ、令和4年度より新カリキュラムが始まりました。当学院では、一年次から地域の様々な施設に赴き、人々の多様な暮らしの場や健康を守る取り組みを学ぶ実習や、専門職連携・協働を学ぶ実習など、広い視野で保健医療福祉の活動を捉えるよう工夫しています。また、情報倫理や医療におけるICT技術について学ぶほか、臨床判断能力の強化に向けた教育を行ってきました。今年3月にその一期生となる第70回生が卒業し、看護師国家試験についても今回で6年連続の全員合格を頂くことができました。

さて、今の学生たちの中高校生時代を襲ったコロナ禍は、他者に働きかける力、主体性、計画性、実行力といった、いわゆる社会人基礎力を身に付ける上で、少なからず影響を与えました。

今や看護学生となり、看護師としての組織社会化(所属組織の中であるべき適切な振る舞いを身に付けること)や職業社会化(看護師としての知識・技能的側面を身に付けること)が進んでいく過程にあります。特に実習は、学内に比べ学生の成長がより早く進む傾向があり、これもひとえに多忙な中でも実習を受入れ、成長を手助けして下さっている実習施設の皆様のおかげです。学生が卒業時到達目標を達成するためには、受け持ち患者様やご家族様のご協力と、実習施設の皆様からの温かなご教示が何より重要であることを痛感しております。

また18歳人口減少により、学生確保が重要課題であり、当学院は今年度より一般選抜試験の他、学校推薦型選抜試験を導入する運びとなりました。

これからもよりよい教育を目指し、将来、先生方のお役に立つ看護師を輩出できるよう、教職員一丸となって取り組んでまいります。引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲1年次 食事介助演習



▲行事・花笠祭り参加



2年次 沐浴演習▶



▲行事・済学祭▶



【発行】診ます会事務局

〒990-8533

山形市七日町1-3-26 山形市立病院済生館 地域医療連携室
TEL 023-625-5555(代表) E-Mail renkeishitu@saiseikan.jp